

藤田医科大（愛知県豊明市）は二十六日、人体に影響を及ぼさない低濃度のオゾンガスが新型コロナウイルスの感染力を弱めることを確認したと発表した。同大はオゾン発生装置を付属病院の待合室などに導入し、感染リスクを低減させる取り組みを九月上旬から始める。

オゾンは多量を取り込んだ場合、呼吸器系の障害などを引き起こすとされる。健康に悪影響を及ぼさないとされる許容濃度である一日八時間、週四十時間で平均〇・一ppm

低濃度オゾン 感染力を低下

藤田医科大「適切な管理必要」

m以下の濃度で、新型コロナウイルスの感染力を弱める効果を示したのは初めてという。

同大の村田貴之教授（ウイルス学）は、新型コロナウイルスを着させたステンレスを密閉容器に入れ、〇・一ppmのオゾンを発生させた。湿度80%の場合は四時間後、何もしない場合と比べて感染力を持ったウイルスの量が27%に減少し、十時間後には4・6%にまで減った。

湿度55%の場合は四時間後

で53%、十時間後で32%となり、湿度が高い方が効果的と確認。オゾン濃度を〇・〇五ppmにしても感染力を弱める効果があったという。村田教授は「直接の証拠はないが、（物に付着したウイルスだけでなく）空気中のウイルスにも効果があると考えている」と説明した。

オゾン発生装置は市販されているが、性能はさまざまで、同大は適切な濃度の管理が必要と説明。「一般家庭に勧めているわけではない」としている。（白名正和）

許諾番号

20201009-25082

(FSK株式会社では、中日新聞社の許諾を得て掲載しています。)